

春期展覧会予告

2021. 3.20 SAT.
~ 5.9 SUN.



《山百合》昭和51年(1976)頃

海の見える杜美術館コレクションで見る 小松均の絵画 (仮称)

小松均(一九〇二~一九八九)は、山形に生まれ、一九二〇年に東京に出て川端画学校で絵を学び、後に京都の土田麦僊を訪ねてその門下生となって活躍しました。早くから水墨画に興味を持ち、強い墨線による独特の描法はある種の土俗的な魅力をたたえるものです。そのような小松の絵は同時代の画壇で異色の存在感を放ち、帝展や院展で入選を重ねます。戦後大原に転居してからは自給自足の生活をしながら作画活動を続け、世俗とは無縁の暮らしぶりから「大原の画仙」と呼ばれました。

今回の展覧会では、その芸術の真骨頂である風景画のひとつ《石廊崎画卷》や、自らが住んだ大原の女性を描く《牛と大原女》、花や女性、静物を写した版画作品などからなる、海の見える杜美術館の小松均コレクションをまとめてご紹介いたします。



《石廊崎画卷》昭和15年(1940)頃



《牛と大原女》昭和19年(1944)頃

主催：海の見える杜美術館
休館日：月曜日(ただし5月3日(祝)は開館)、5月7日(金)
開館時間：10:00~17:00(入館は16:30まで)
入館料：一般1,000円 高校生・大学生500円 中学生以下無料
*障がい者手帳などをお持ちの方は半額。*介添えの方は1名無料。20名以上の団体は各200円引き。
*タクシー来館特典：タクシーでご来館の方、タクシー1台につき1名入館無料(ご入場の際に当日のタクシー領収書を受付にご提示ください)

海の見える杜美術館
learn from nature and pursue art & culture